

秋田市小・中学校配置案

～子どもたちの未来のために～

For the future of children



2019(平成31)年3月 秋田市教育委員会

学校適正配置の検討の目的

学校は、子どもたちが様々な人と出会うことにより、新たな考え方や価値観に触れるとともに、互いを理解し、支え合い、協力することを通して、「自立と共生の力」をはぐくむ場です。

そのため、少子化の進展により児童生徒数が減少しても、学校に一定の集団規模を持つ良好な教育環境を確保することが大切です。

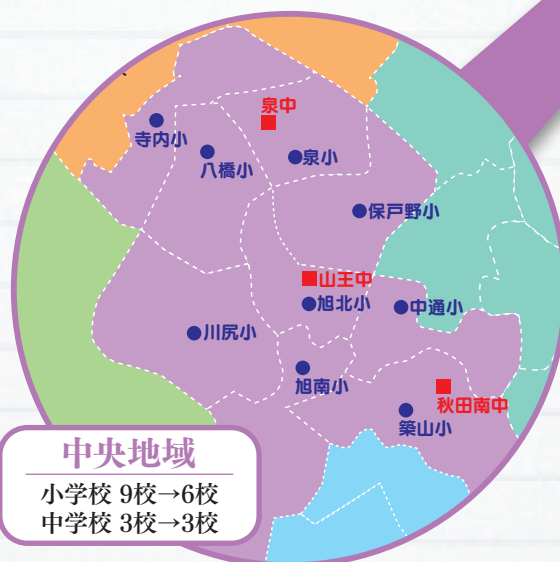
秋田市では、市民のみなさんとともに、学校を取り巻く状況や地域における役割などを共有しながら、全市的な観点の下で、将来の小・中学校のよりよいあり方(学校適正配置)の実現に向けた取組を進めていきます。

学校数設定の考え方

2040年の児童生徒数の推計*を基に、望ましい学級数である18学級となるような将来の学校数を、7つの地域ブロックごとに設定しました。

この学校数は、将来の児童生徒数の動向に柔軟に対応できるよう、その地域における上限としたものです。

※児童生徒数の推計は、秋田市人口ビジョン(人口ピ)と国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の将来推計人口に基づき、教育委員会で算出したものです。



7つの地域ブロック別の将来の学校数

秋田市全体

小学校 41校→27校
中学校 23校→16校

北部地域

小学校 10校→6校
中学校 5校→3校

東部地域

小学校 7校→5校
中学校 5校→3校

河辺地域

小学校 3校→1校
中学校 2校→1校

南部地域

小学校 6校→5校
中学校 3校→3校

西部地域

小学校 5校→3校
中学校 4校→2校

雄和地域

小学校 1校→1校
中学校 1校→1校



● 地域協議における共通の留意事項

- 2019年度から開始する地域との協議においては、次のことに留意します。
- ① 学校の組み合わせは、学校配置案に定めた学校数に基づくこととします。
- ② 児童生徒数の動向などに応じて、上限よりも少ない学校数での統合の可能性も視野に入れます。
- ③ 学校の組み合わせは、1つの小学校から同一の中学校に進学できるようにすることを基本とします。
- ④ 学校の組み合わせは、まず中学校から検討し、その後、中学校に接続する小学校の組み合わせを検討することを基本とします。
- ⑤ 学校施設や学区の状況、通学の実情などを把握したうえで、現在の学区の見直しが必要であると考えられる場合は、柔軟に検討していきます。

地域ブロック別の学校数と留意事項等

中央地域ブロック

(1) 将来の学校数の上限



小学校(現行)9校 ➡ **6校**



中学校(現行)3校 ➡ **3校**

(2) 児童生徒数の推移と今後の見込み

(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	2040年	
					人口ピ	社人研
小学校	保戸野小	287	269	237	227	144
	築山小	482	442	386	370	234
	旭北小	361	306	273	261	166
	中通小	231	219	207	198	125
	旭南小	415	352	348	334	211
	川尻小	530	534	529	507	320
	八橋小	484	425	415	397	251
	泉小	593	523	486	466	294
	寺内小	403	387	323	311	195
	合計	3,786	3,457	3,204	3,071	1,940
中学校	秋田南中	500	418	344	330	208
	山王中	686	610	544	521	329
	泉中	767	690	629	604	381
	合計	1,953	1,718	1,517	1,455	918

(3) 地域協議における留意事項等

- ① 中央地域ブロックは、市の政治・経済の中心地であり、都市施設や公共公益施設などが集積する市街地としての特性を踏まえる必要があります。
- ② 将来の中学校数は現行と同じ3校ですが、生徒数の動向によっては適正規模を下回る学校が生じる可能性もあります。
- ③ 1つの小学校から複数の中学校へ進学しているのは、保戸野小(→山王中・秋田東中)と旭南小(→秋田南中・山王中)です。
- ④ 保戸野小の学区には、東部地域ブロックの秋田東中が指定校となる区域があります。
- ⑤ 1学年に1学級の小学校は、中通小です。



東部地域ブロック

(1) 将来の学校数の上限



小学校(現行)7校 ➡ 5校



中学校(現行)5校 ➡ 3校

(2) 児童生徒数の推移と今後の見込み

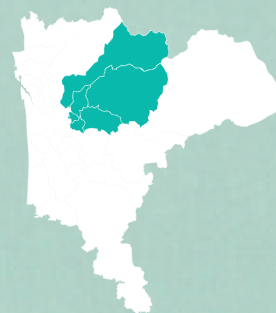
(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	2040年	
					人口ピ	社人研
小学校	明徳小	303	280	207	198	126
	旭川小	607	535	539	517	325
	広面小	568	567	559	535	339
	太平小	99	65	36	36	22
	下北手小	141	132	93	89	55
	東小	509	478	482	463	293
	桜小	843	911	953	913	579
	合計	3,070	2,968	2,869	2,751	1,739
中学校	秋田東中	529	477	458	440	277
	太平中	47	43	24	24	14
	下北手中	69	68	31	30	19
	城東中	545	496	495	475	299
	桜中	431	425	446	428	270
	合計	1,621	1,509	1,454	1,397	879

※太平小の2008年には旧山谷小35人を含む

(3) 地域協議における留意事項等

- ① 東部地域ブロックは、豊かな自然環境を有するとともに、秋田駅東地区を中心とした開発が進んでいるエリアであり、広域な地域の特性を踏まえる必要があります。
- ② 複式学級がある小学校は、太平小です。
1学年に1学級の小学校は、下北手小です。
- ③ 1学年に1学級の中学校は、太平中と下北手中です。



西部地域ブロック

(1) 将来の学校数の上限



小学校(現行)5校 ➡ 3校



中学校(現行)4校 ➡ 2校

(2) 児童生徒数の推移と今後の見込み

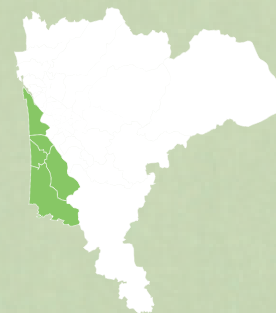
(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	2040年	
					人口ピ	社人研
小学校	日新小	973	891	831	796	503
	勝平小	794	729	646	620	391
	浜田小	123	85	57	57	33
	豊岩小	66	48	44	44	27
	下浜小	98	67	50	50	29
	合計	2,054	1,820	1,628	1,567	983
中学校	秋田西中	586	546	453	435	274
	豊岩中	29	34	26	26	16
	下浜中	49	45	27	26	16
	勝平中	368	380	308	295	187
	合計	1,032	1,005	814	782	493

※勝平小、勝平中には千秋分校の児童生徒を含まない

(3) 地域協議における留意事項等

- ① 西部地域ブロックは、住宅地や工業団地があり、周辺には豊かな自然環境が広がるエリアであり、広域な地域の特性を踏まえる必要があります。
- ② 将来の小学校数は3校ですが、児童数の状況を踏まえ、上限よりも少ない学校数での配置を検討する余地があります。
- ③ 複式学級がある小学校は、浜田小、豊岩小、下浜小です。
- ④ 1学年に1学級の中学校は、豊岩中と下浜中です。



南部地域ブロック

(1) 将来の学校数の上限



小学校(現行)6校 ➡ **5校**



中学校(現行)3校 ➡ **3校**

(2) 児童生徒数の推移と今後の見込み

(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	2040年	
					人口ピ	社人研
小学校	牛島小	514	509	378	362	229
	仁井田小	739	615	571	547	346
	四ツ小屋小	352	284	273	261	166
	上北手小	168	159	232	223	141
	大住小	765	631	533	512	324
	御所野小	668	621	621	595	375
	合計	3,206	2,819	2,608	2,500	1,581
中学校	城南中	715	626	514	493	312
	御野場中	651	623	495	474	299
	御所野学院中	420	342	251	240	152
	合計	1,786	1,591	1,260	1,207	763

(3) 地域協議における留意事項等

- ① 南部地域ブロックは、秋田新都市地区をはじめとする多様な都市機能が集積し、周辺には豊かな田園が広がるエリアであり、広域な地域の特性を踏まえる必要があります。
- ② 将来の中学校数は現行と同じ3校ですが、生徒数の動向によっては適正規模を下回る学校が生じる可能性もあります。
- ③ 御所野学院中は、中高一貫校として特認校制度^(※)を適用しています。

※特認校制度とは、特定の学校について、通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める制度です。



北部地域ブロック

(1) 将来の学校数の上限



小学校(現行)10校 ➡ **6校**



中学校(現行)5校 ➡ **3校**

(2) 児童生徒数の推移と今後の見込み

(単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	2040年	
					人口ピ	社人研
小学校	土崎小	243	220	210	202	128
	港北小	716	666	566	543	343
	土崎南小	288	278	281	269	170
	高清水小	384	345	280	268	169
	外旭川小	640	581	535	512	324
	飯島小	587	519	487	468	295
	下新城小	148	123	133	127	81
	上新城小	39	25	20	20	12
	金足西小	191	189	172	166	104
	飯島南小	546	443	416	398	252
	合計	3,782	3,389	3,100	2,973	1,878
中学校	土崎中	493	474	445	427	269
	外旭川中	276	287	254	244	154
	秋田北中	269	283	275	264	167
	將軍野中	399	374	295	283	179
	飯島中	575	485	324	310	197
	合計	2,012	1,903	1,593	1,528	966

(3) 地域協議における留意事項等

- ① 北部地域ブロックは、北東北の海の玄関口となる秋田港や工業地帯を有し、周辺には豊かな自然環境があるエリアであり、広域な地域の特性を踏まえる必要があります。
- ② 1つの小学校から複数の中学校へ進学しているのは、飯島小(→秋田北中・飯島中)です。
- ③ 複式学級がある小学校は、上新城小です。1学年に1学級の小学校は、下新城小、金足西小です。



※下新城小の2008年には旧金足東小14人を含む

※飯島中の2008年には旧上新城中38人を含む

河辺地域ブロック

(1) 将来の学校数の上限



小学校(現行)3校 → **1校**



中学校(現行)2校 → **1校**

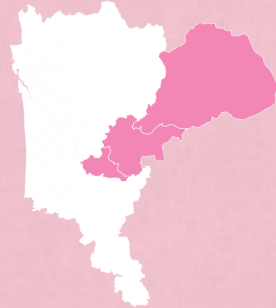
(2) 児童生徒数の推移と今後の見込み (単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	2040年	
					人口ピ	社人研
小学校	岩見三内小	90	65	49	49	30
	河辺小	231	203	178	171	107
	戸島小	108	85	74	72	45
	合計	429	353	301	292	182
中学校	岩見三内中	56	38	32	31	20
	河辺中	176	147	138	132	83
	合計	232	185	170	163	103

※河辺小の2008年には旧赤平小22人を含む

(3) 地域協議における留意事項等

- ① 河辺地域ブロックは、公園や河川など豊かな自然環境が広がるとともに、農林畜産業が盛んなエリアであり、広域な地域の特性を踏まえる必要があります。
- ② 複式学級がある小学校は、岩見三内小と戸島小です。
- ③ 1学年に1学級の中学校は、岩見三内中です。



雄和地域ブロック

(1) 将来の学校数の上限



小学校(現行)1校 → **1校**



中学校(現行)1校 → **1校**

(2) 児童生徒数の推移と今後の見込み (単位：人)

区分	学校名	2008年	2013年	2018年	2040年	
					人口ピ	社人研
小学校	雄和小	303	264	180	173	109
	合計	303	264	180	173	109
中学校	雄和中	179	132	96	92	59
	合計	179	132	96	92	59

※雄和小の2008年と2013年は旧4小の児童の合計である

(3) 地域協議における留意事項等

- ① 雄和地域ブロックは、空の玄関口である秋田空港や雄物川沿いに広がる田園、山林などの豊かな自然環境を有するエリアであり、小・中学校ともすでに将来の学校数である1校となっています。
- ② 旧4小の統合による雄和小の設置は、他の地域ブロックにおける先行事例となるものであり、統合の検討経緯や統合後の取組などは、他地域の参考となります。



地域協議の進め方

2019年度から、7つの地域ブロックごとに「地域ブロック協議会」を設置し、望ましい学校数となるような統合の方向性(学校の組み合わせ)について、保護者や地域のみなさんと協議を始めます。

統合の方向性が決まれば、関係する学校の保護者や地域のみなさんと検討を進めます。



秋田市の小・中学校適正配置に関する Q & A

Q

地域協議では、どのようなことを話し合うのですか？

地

域との協議では、今後の児童生徒数の見込みや通学区域の現状など、地域や学校の課題を整理したうえで、将来の望ましい学校はどうあればよいか、保護者や地域のみなさんと話し合っていきます。

なお、協議の内容は、学校や町内会などを通じて、随時、お知らせする予定です。

Q

学校適正配置の取組は、いつまでを期限としているのですか？

学

校は、地域コミュニティの中で重要な役割を果たしていることから、そのあり方については、保護者や地域のみなさんと十分な合意形成を図っていく必要があります。

そのため、地域との合意形成が図られるまで協議を続けることとし、期限を設けることは考えていません。

秋田市教育委員会 学校適正配置推進室

〒010-8560 秋田市山王一丁目1-1
TEL.018-888-5812 FAX.018-888-5804

URL <https://www.city.akita.lg.jp/kyoikuiinkai/1010626/1011634.html>

E-mail: ro-edaz@city.akita.lg.jp

